

2013年2月7日

# 2013年3月期第3四半期決算の概要

東レ株式会社

# 目次

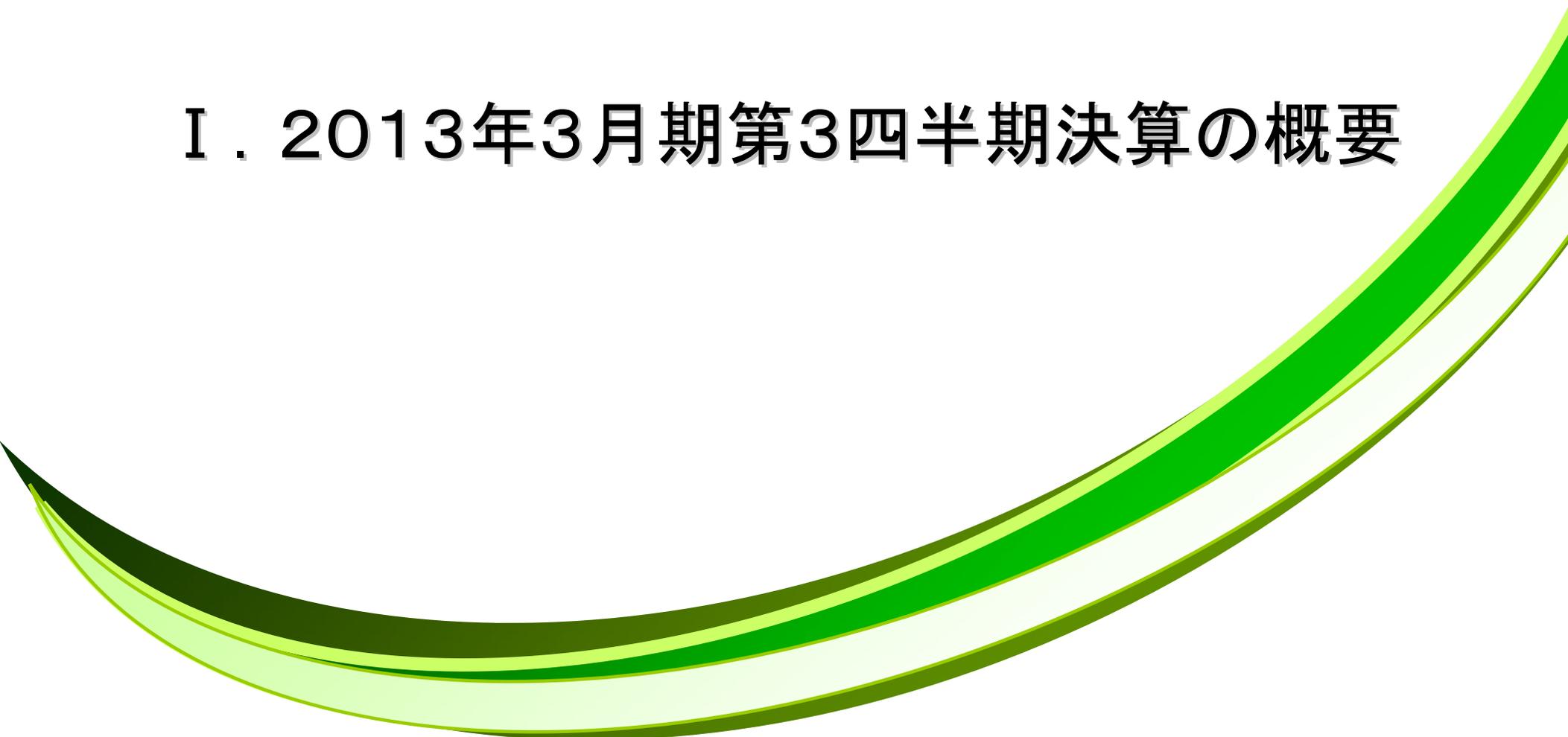
## I. 2013年3月期第3四半期決算の概要

2013年3月期第3四半期連結損益概要	(P3)
営業外収支	(P4)
特別損益	(P5)
資産・負債・純資産	(P6)
設備投資額・減価償却費・研究開発費	(P7)
セグメント別売上高・営業利益	(P8)
セグメント別業績	(P9-16)
営業利益増減要因分析(第3四半期累計期間)	(P17)
主要子会社収益状況(第3四半期累計期間)	(P18)
セグメント別営業利益 2Qvs3Q比較	(P19)

## II. 2013年3月期連結業績見通し

2013年3月期連結業績見通し	(P21)
セグメント別業績見通し	(P22)
セグメント別営業利益の前回見通しとの差異	(P23)

# I . 2013年3月期第3四半期決算の概要



# 2013年3月期第3四半期連結損益概要

億円

	12年3月期 第3四半期 (10~12月)	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減	12年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
売上高	3,999	4,197	+198 (+4.9%)	11,997	11,734	-263 (-2.2%)
売上原価	3,195	3,382	+187 (+5.9%)	9,475	9,431	-44 (-0.5%)
売上総利益	804	814	+10 (+1.3%)	2,522	2,303	-219 (-8.7%)
(売上高総利益率)	20.1%	19.4%	-0.7 ポイント	21.0%	19.6%	-1.4 ポイント
販売費及び 一般管理費	546	568	+21 (+3.9%)	1,630	1,690	+59 (+3.6%)
(売上高販管費比率)	13.7%	13.5%	-0.1 ポイント	13.6%	14.4%	+0.8 ポイント
営業利益	258	247	-11 (-4.4%)	892	614	-278 (-31.2%)
(売上高営業利益率)	6.4%	5.9%	-0.6 ポイント	7.4%	5.2%	-2.2 ポイント
営業外収支	3	11	+8	24	25	+1
経常利益	261	258	-3 (-1.1%)	916	638	-277 (-30.3%)
特別損益	▲ 26	▲ 11	+16	▲ 57	▲ 78	-21
税前利益	235	247	+13 (+5.4%)	859	560	-298 (-34.8%)
四半期純利益	139	173	+34 (+24.5%)	540	373	-167 (-30.9%)

	(12/3 3Q)	→	(13/3 3Q)	(12/3 3Q累計)	→	(13/3 3Q累計)
為替レート <円/US\$> 期中平均	77.4	→	81.2	79.0	→	80.0
期末	77.7	→	86.6			
<円/ユーロ> 期中平均	104.3	→	105.3	110.6	→	102.2
期末	100.7	→	114.7			
原油価格 <US\$/バレル> (DUBAI FOB) 期中平均	106.5	→	107.5	108.1	→	106.7

(注)3月期決算会社は10~12月の業績、12月期決算会社は7~9月の業績を連結

# 営業外収支

億円

	12年3月期 第3四半期 (10~12月)	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減	12年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
営業外収益	30	45	+14	107	117	+10
受取利息及び配当金	12	9	-2	29	29	+0
持分法による投資利益	7	18	+11	43	51	+8
雑収入	12	17	+6	35	37	+1
営業外費用	▲ 28	▲ 34	-6	▲ 83	▲ 92	-9
支払利息	▲ 14	▲ 14	+0	▲ 42	▲ 42	+1
雑損失	▲ 14	▲ 20	-6	▲ 41	▲ 50	-9
営業外収支	3	11	+8	24	25	+1
金融収支	▲ 2	▲ 4	-2	▲ 14	▲ 13	+1

注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

# 特別損益

億円

	12年3月期 第3四半期 (10~12月)	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減	12年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
特別利益	4	7	+3	5	8	+3
有形固定資産売却益	3	5	+2	4	7	+3
投資有価証券売却益	0	1	+1	0	1	+0
その他	0	1	+1	0	0	-0
特別損失	▲ 30	▲ 17	+12	▲ 62	▲ 86	-24
有形固定資産処分損	▲ 13	▲ 15	-2	▲ 27	▲ 29	-2
災害による損失	-	▲ 1	-1	▲ 4	▲ 19	-15
投資有価証券評価損	▲ 4	-	+4	▲ 16	▲ 34	-18
その他	▲ 14	▲ 1	+12	▲ 15	▲ 4	+11
ネット特別損益	▲ 26	▲ 11	+16	▲ 57	▲ 78	-21

注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

億円

	12年3月末	12年12月末	増減
資産合計	15,815	16,273	+458
流動資産	7,262	7,520	+258
有形固定資産	5,619	5,846	+227
無形固定資産	426	411	-15
投資その他	2,507	2,496	-11

	12年3月末	12年12月末	増減
負債合計	9,074	9,198	+124
流動負債	5,158	4,740	-418
固定負債	3,915	4,458	+542
純資産合計	6,741	7,076	+334
有利子負債残高	4,819	5,273	+454
D/Eレシオ	0.77	0.80	+0.03

# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

億円

	12年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減	特記事項
設備投資額	493	676	+183	東レ:212、連結子会社:463
減価償却費	496	481	-15	東レ:216、連結子会社:264
振替・除却等	▲ 125	32	+157	
有形固定資産増減	▲ 128	227	+354	
研究開発費	373	401	+28	

## 主な設備投資:

東レ:PPS(ポリフェニレンサルファイド)樹脂設備

TAK (Toray Advanced Materials Korea Inc.):炭素繊維設備

TAFK(Toray Advanced Film Kaohsiung Co., Ltd.):自己粘着性表面保護フィルム設備

# セグメント別売上高・営業利益

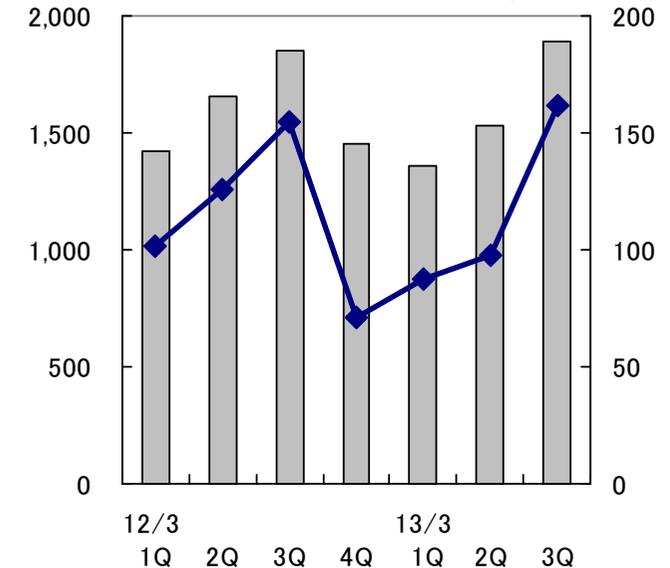
億円

	売上高			営業利益		
	12年3月期 第3四半期 (10~12月)	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減	12年3月期 第3四半期 (10~12月)	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減
繊維	1,852	1,894	+43 (+2.3%)	155	162	+7 (+4.5%)
プラスチック・ケミカル	936	964	+28 (+3.0%)	59	42	-17 (-28.8%)
情報通信材料・機器	538	565	+27 (+5.0%)	53	63	+10 (+18.1%)
炭素繊維複合材料	170	197	+27 (+16.1%)	26	13	-13 (-49.1%)
環境・エンジニアリング	328	406	+78 (+23.9%)	▲ 3	▲ 3	-0 (-)
ライフサイエンス	145	141	-4 (-2.8%)	10	21	+11 (+109.9%)
その他	31	29	-1 (-4.6%)	3	3	-0 (-1.1%)
計	3,999	4,197	+198 (+4.9%)	303	300	-3 (-0.9%)
調整額				▲ 45	▲ 53	-9
連結	3,999	4,197	+198 (+4.9%)	258	247	-11 (-4.4%)
	売上高			営業利益		
	12年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減	12年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
繊維	4,927	4,783	-144 (-2.9%)	382	347	-35 (-9.2%)
プラスチック・ケミカル	3,001	2,914	-87 (-2.9%)	223	147	-76 (-34.0%)
情報通信材料・機器	1,838	1,776	-62 (-3.4%)	250	159	-91 (-36.5%)
炭素繊維複合材料	533	563	+30 (+5.6%)	76	55	-21 (-27.8%)
環境・エンジニアリング	1,180	1,187	+7 (+0.6%)	39	▲ 3	-43 (-)
ライフサイエンス	420	411	-9 (-2.2%)	52	51	-1 (-2.8%)
その他	97	100	+3 (+2.8%)	7	9	+2 (+23.8%)
計	11,997	11,734	-263 (-2.2%)	1,031	765	-266 (-25.8%)
調整額				▲ 139	▲ 152	-13
連結	11,997	11,734	-263 (-2.2%)	892	614	-278 (-31.2%)

# セグメント別業績(繊維)

単位: 億円 <棒グラフ> 売上高 <線グラフ> 営業利益 (億円)

		3Q(10~12月)			3Q累計(4~12月)		
		12年 3月期	13年 3月期	増減	12年 3月期	13年 3月期	増減
売上高	東レ	248	233	-16 (-6.3%)	781	739	-42 (-5.3%)
	国内	1,072	1,139	+67 (+6.3%)	2,576	2,544	-32 (-1.2%)
	海外	532	523	-9 (-1.6%)	1,570	1,500	-70 (-4.5%)
	計	1,852	1,894	+43 (+2.3%)	4,927	4,783	-144 (-2.9%)
営業利益	東レ	29	31	+2 (+8.3%)	95	103	+8 (+8.3%)
	国内	44	41	-4 (-8.0%)	94	88	-6 (-6.3%)
	海外	70	61	-8 (-11.8%)	200	141	-59 (-29.5%)
	修正	12	28	+16	▲ 7	15	+22
	計	155	162	+7 (+4.5%)	382	347	-35 (-9.2%)



## 3Q(10~12月)

**東レ** : 国内では、衣料用途は機能性秋冬物衣料用途等が堅調に推移。産業用途では、エコカー補助金終了の反動により自動車関連用途の需要が減少。

**国内子会社** : 商事子会社は、堅調に推移。

**海外子会社** : 中国の縫製品事業は堅調に推移したが、衣料用途を中心に欧米景気低迷及び中国の内需減速の影響を受けた。

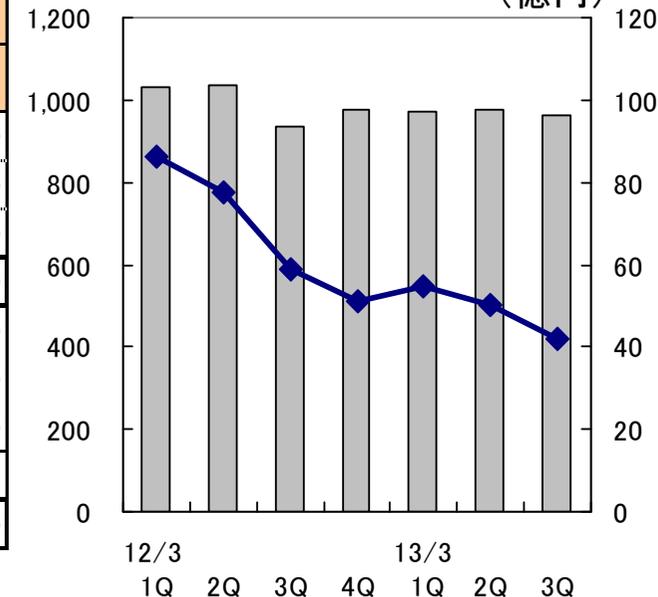
## 3Q累計 (4~12月)

国内では、産業用途は自動車メーカーの生産拡大に伴って自動車関連用途向けの販売が上半期は堅調に推移したが、第三四半期にはエコカー補助金終了の反動により需要は減少。衣料用途は機能性秋冬物衣料用途等が堅調に推移したものの、その他一般衣料用途は春先の天候不順や景気後退の影響などにより需要は弱含みで推移。海外では、欧米景気及び中国内需の減速の影響を受けてアジア地域の需要は低調に推移したことに加え、上半期にはタイの洪水の影響が生産・販売面で残った。

# セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)

売上高 <棒グラフ> 営業利益 <線グラフ>  
単位: 億円 (億円)

		3Q(10~12月)			3Q累計(4~12月)		
		12年 3月期	13年 3月期	増減	12年 3月期	13年 3月期	増減
売上高	東レ	208	174	-34 (-16.4%)	599	546	-54 (-9.0%)
	国内	332	352	+20 (+6.0%)	1,075	1,024	-51 (-4.8%)
	海外	397	439	+42 (+10.5%)	1,327	1,344	+18 (+1.3%)
	計	936	964	+28 (+3.0%)	3,001	2,914	-87 (-2.9%)
営業利益	東レ	12	▲6	-18 (-)	34	4	-30 (-86.9%)
	国内	18	15	-3 (-17.6%)	72	49	-23 (-31.5%)
	海外	28	32	+4 (+15.7%)	115	90	-25 (-21.7%)
	修正	1	0	-0	2	3	+1
	計	59	42	-17 (-28.8%)	223	147	-76 (-34.0%)



## 3Q(10~12月)

- 樹脂** : 国内では、エコカー補助金終了の反動により需要が減少。海外では、マレーシアの樹脂子会社は、中国市場の停滞により、汎用ABS樹脂の需要は低迷しているものの、高付加価値品の販売を拡大。
- フィルム** : 世界的な景気低迷などの影響により国内外で需要が低調に推移するとともに価格競争の激化が継続。
- ケミカル** : 全般的に価格低下の影響を受けた。

## 3Q累計 (4~12月)

樹脂事業は、上半期には国内を中心に自動車メーカーの生産拡大に伴ってエンジニアリング・プラスチックの自動車関連用途への販売量が伸長したが、第3四半期にはエコカー補助金終了の反動により需要は減少。海外では、中国市場の停滞により、汎用ABS樹脂の荷動きが低調に推移したが、樹脂コンパウンドなどの米国自動車用途向けの販売は拡大。フィルム事業は、世界的な景気低迷などの影響により国内外で需要が低調に推移するとともに価格競争の激化が継続。

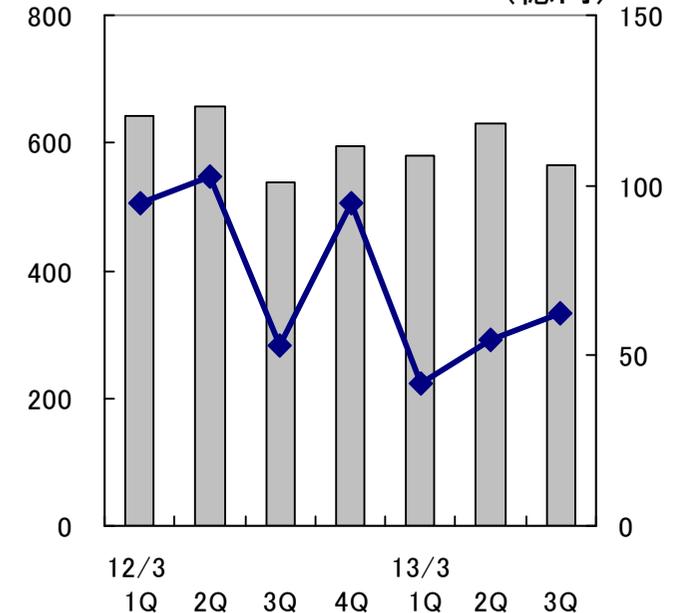
# セグメント別業績(情報通信材料・機器)

単位: 億円

		3Q(10~12月)				3Q累計(4~12月)			
		12年 3月期	13年 3月期	増減		12年 3月期	13年 3月期	増減	
売上高	東レ	218	203	-15	(-6.8%)	769	666	-103	(-13.3%)
	国内	144	182	+38	(+26.7%)	519	570	+51	(+9.9%)
	海外	176	180	+3	(+1.9%)	551	540	-11	(-2.0%)
	計	538	565	+27	(+5.0%)	1,838	1,776	-62	(-3.4%)
営業利益	東レ	27	29	+2	(+7.4%)	158	89	-68	(-43.4%)
	国内	5	16	+11	(+206.6%)	25	40	+15	(+60.9%)
	海外	21	26	+5	(+22.9%)	68	60	-8	(-11.8%)
	修正	0	▲ 8	-8		▲ 0	▲ 30	-30	
	計	53	63	+10	(+18.1%)	250	159	-91	(-36.5%)

売上高  
棒グラフ

営業利益  
線グラフ  
(億円)



## 3Q(10~12月)

大型液晶パネル関連材料は、前年同期にあった液晶パネルの生産調整から回復基調となり、フィルム及びフィルム加工品を中心に堅調に推移。中・小型ディスプレイ関連部材は、スマートフォン関連材料など一部を除き総じて低調に推移し、競合激化による販売価格下落の影響を受けた。

## 3Q累計 (4~12月)

薄型テレビ市場の低迷による液晶パネルの生産調整はほぼ終了し緩やかな回復基調にあるものの、フィルム及びフィルム加工品をはじめとした薄型テレビ関連製品は、上半期の需要回復が緩慢であったため前年同期の水準までの回復には至らず、価格競争も激化。中・小型ディスプレイ関連部材は、スマートフォン関連製品は堅調に推移したが、その他の用途向けは総じて低調に推移。

# 情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

## 【サブセグメント別売上高推移】

単位：億円

	12/3期第3四半期 (10~12月)		13/3期第3四半期 (10~12月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	195	36%	198	35%	+2%
電子部品・半導体・回路材料	203	38%	241	43%	+19%
記録材料	87	16%	75	13%	-14%
機器他	53	10%	51	9%	-4%
情報通信材料・機器セグメント合計	538		565		+5%

	12/3期第3四半期累計 (4~12月)		13/3期第3四半期累計 (4~12月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	699	38%	602	34%	-14%
電子部品・半導体・回路材料	662	36%	721	41%	+9%
記録材料	252	14%	235	13%	-7%
機器他	224	12%	218	12%	-3%
情報通信材料・機器セグメント合計	1,838		1,776		-3%

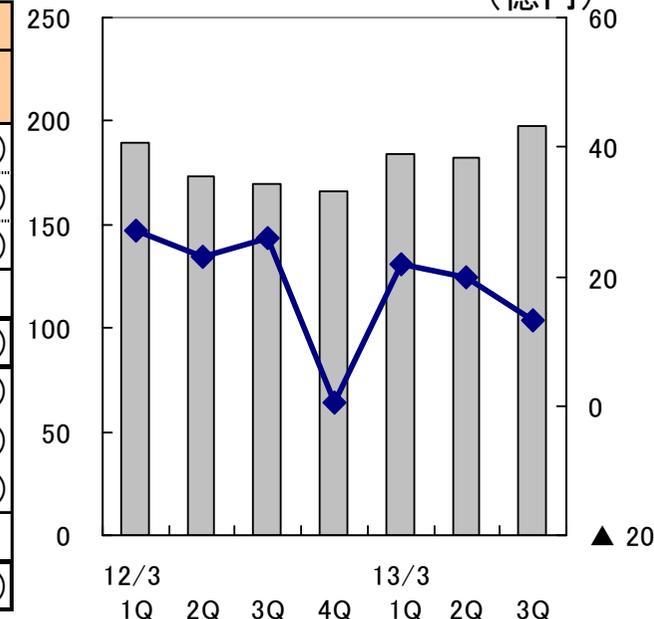
# セグメント別業績(炭素繊維複合材料)

売上高  
＜棒グラフ＞

営業利益  
＜線グラフ＞  
(億円)

単位: 億円

		3Q(10~12月)			3Q累計(4~12月)		
		12年 3月期	13年 3月期	増減	12年 3月期	13年 3月期	増減
売上高	東レ	141	153	+12 (+8.3%)	428	458	+31 (+7.1%)
	国内	118	106	-13 (-10.7%)	334	316	-18 (-5.4%)
	海外	139	146	+6 (+4.5%)	419	441	+22 (+5.2%)
	修正	▲ 229	▲ 207	+22	▲ 648	▲ 652	-4
	計	170	197	+27 (+16.1%)	533	563	+30 (+5.6%)
営業利益	東レ	12	2	-10 (-83.3%)	40	28	-12 (-29.7%)
	国内	0	1	+1 (+280.6%)	3	4	+1 (+41.9%)
	海外	13	10	-3 (-24.8%)	35	33	-2 (-6.5%)
	修正	1	▲ 0	-1	▲ 1	▲ 9	-8
	計	26	13	-13 (-49.1%)	76	55	-21 (-27.8%)



本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

## 3Q(10~12月)

航空宇宙用途や圧縮天然ガスタンク等の環境・エネルギー関連用途が堅調に推移するとともに、スポーツ用途も欧州景気悪化の影響を受けたユーザーでの生産・在庫調整が徐々に進展し、各用途で拡販を推進。一方、スポーツ・一般産業用途の汎用品では、価格競争が継続。

## 3Q累計 (4~12月)

航空機需要の拡大、圧縮天然ガスタンクなど環境・エネルギー関連需要の拡大が進む中で、航空宇宙用途、一般産業用途への拡販を推進。スポーツ用途については、国内外での景気低迷の影響を受けて需要の回復が遅れ、価格競争が継続。

# 炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高推移】

単位：億円

	1 2 / 3 期第 3 四半期 (1 0 ~ 1 2 月)		1 3 / 3 期第 3 四半期 (1 0 ~ 1 2 月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	70	41%	74	38%	+7%
スポーツ	29	17%	32	16%	+9%
一般産業	71	42%	91	46%	+28%
炭素繊維計	170		197		+16%

	1 2 / 3 期第 3 四半期累計 (4 ~ 1 2 月)		1 3 / 3 期第 3 四半期累計 (4 ~ 1 2 月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	201	38%	229	41%	+14%
スポーツ	102	19%	87	15%	-15%
一般産業	230	43%	247	44%	+8%
炭素繊維計	533		563		+6%

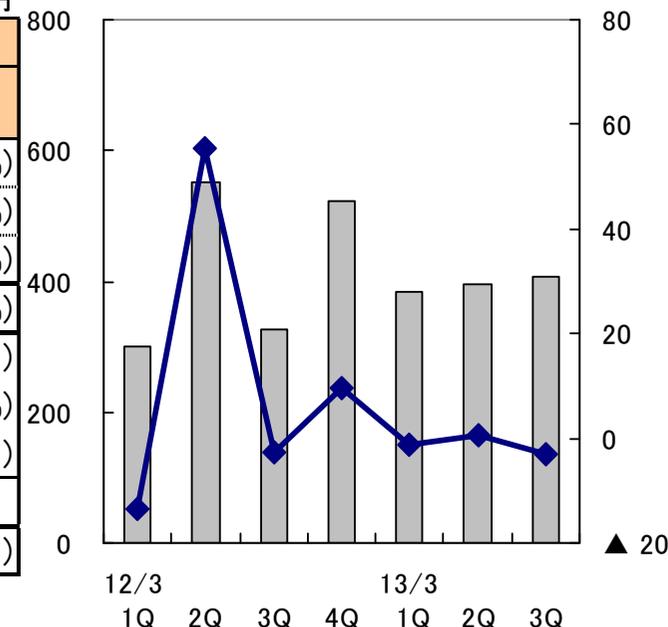
# セグメント別業績(環境・エンジニアリング)

売上高  
＜棒グラフ＞

営業利益  
＜線グラフ＞  
(億円)

単位:億円

		3Q(10~12月)			3Q累計(4~12月)		
		12年 3月期	13年 3月期	増減	12年 3月期	13年 3月期	増減
売上高	東レ	16	22	+6 (+33.7%)	48	57	+8 (+16.9%)
	国内	300	373	+73 (+24.5%)	1,096	1,096	+0 (+0.0%)
	海外	12	11	-1 (-5.2%)	36	35	-1 (-3.6%)
	計	328	406	+78 (+23.9%)	1,180	1,187	+7 (+0.6%)
営業損益	東レ	▲ 5	▲ 6	-1 (-)	▲ 22	▲ 20	+2 (-)
	国内	3	2	-1 (-29.9%)	44	16	-28 (-63.2%)
	海外	▲ 1	1	+2 (-)	▲ 3	▲ 2	+2 (-)
	修正	1	0	-1	21	2	-18
	計	▲ 3	▲ 3	-0 (-)	39	▲ 3	-43 (-)



## 3Q(10~12月)

**水処理事業** : 水処理膜事業は、逆浸透膜の大型案件向け出荷に加え、欧州・中東向け販売が堅調に推移。

**国内** : 建設・不動産子会社の完成物件が前年同期に比べて増加したことに加え、商事子会社も取扱高を拡大。

## 3Q累計 (4~12月)

東レ本体の水処理膜事業は、主要な市場である欧米、中東、中国などの需要は低調に推移したが、逆浸透膜をはじめ各種水処理膜の受注活動を世界各地で推進。国内子会社は、水処理エンジニアリング子会社等の業績は堅調に推移したが、前年同期にあった不動産事業での大型案件の完成がなくなった。

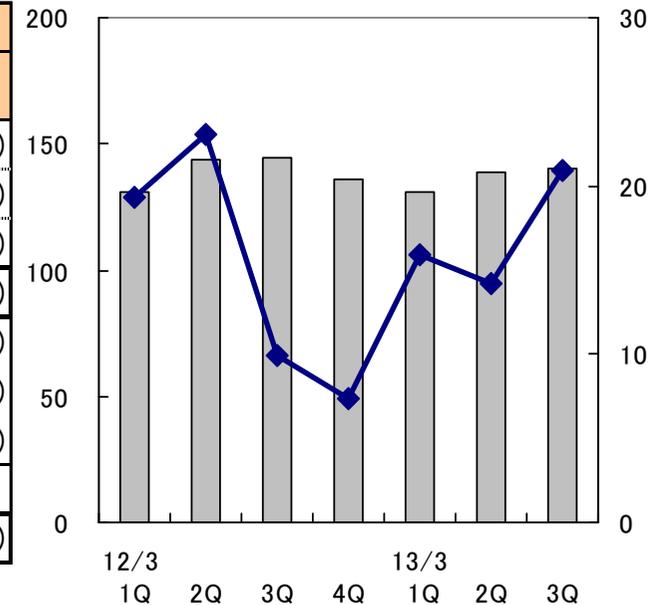
# セグメント別業績(ライフサイエンス)

売上高  
〈棒グラフ〉

営業利益  
〈線グラフ〉  
(億円)

単位:億円

		3Q(10~12月)			3Q累計(4~12月)		
		12年 3月期	13年 3月期	増減	12年 3月期	13年 3月期	増減
売上高	東レ	44	39	-6 (-13.0%)	131	112	-19 (-14.5%)
	国内	96	98	+1 (+1.4%)	277	290	+13 (+4.7%)
	海外	4	4	+0 (+8.1%)	12	9	-3 (-25.8%)
	計	145	141	-4 (-2.8%)	420	411	-9 (-2.2%)
営業利益	東レ	6	13	+7 (+115.0%)	41	38	-2 (-6.1%)
	国内	4	4	-0 (-3.5%)	11	12	+0 (+3.8%)
	海外	▲0	▲1	-1 (-)	0	▲1	-2 (-)
	修正	▲0	5	+5	0	2	+2
	計	10	21	+11 (+109.9%)	52	51	-1 (-2.8%)



## 3Q(10~12月)

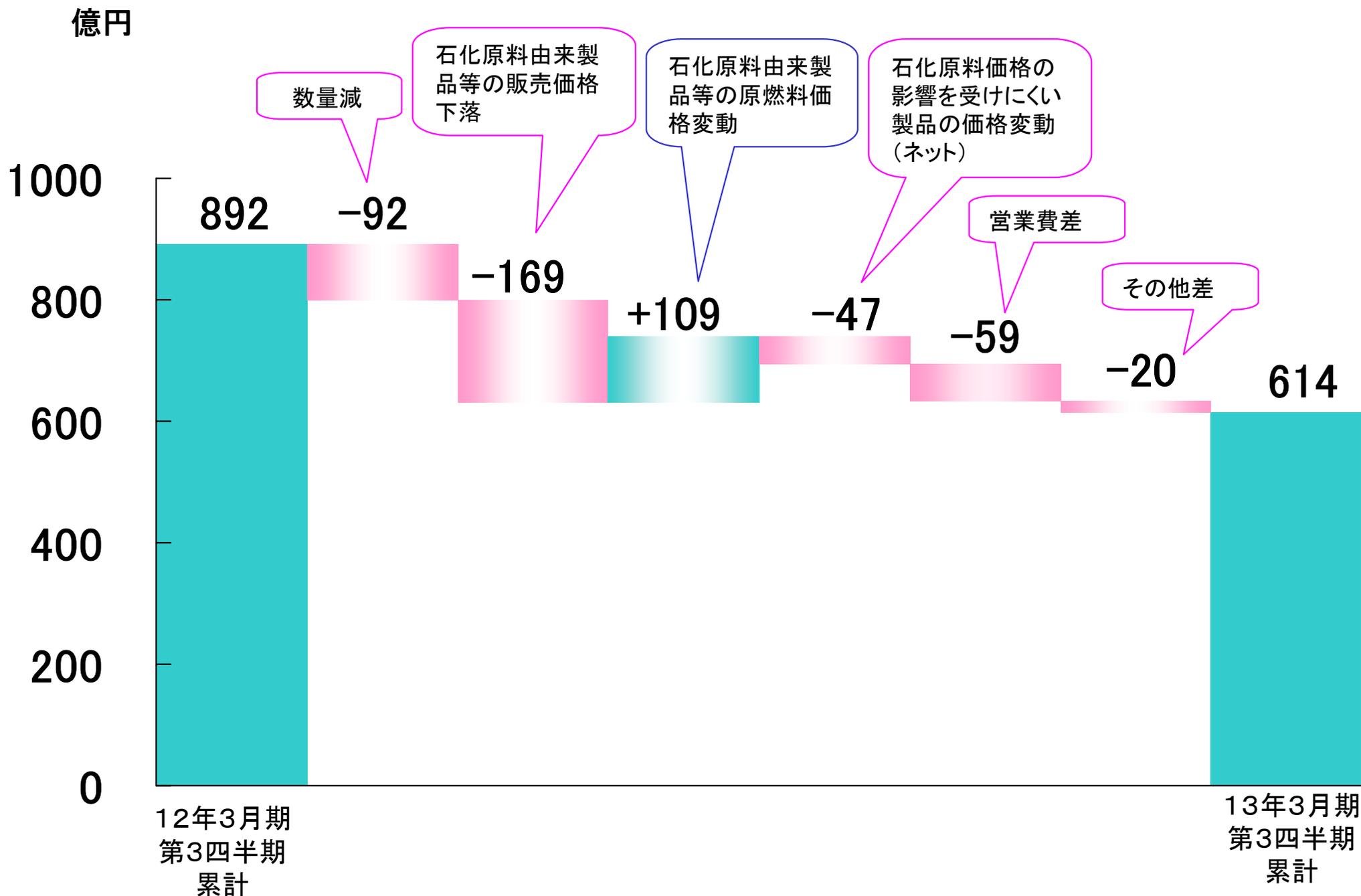
医療材については、ポリスルホン膜人工腎臓トレライト<sup>®</sup>、NVなどの販売が順調に拡大。医薬品については、血液透析患者向けの経口そう痒症改善剤レミッチ<sup>®</sup>の拡販を推進したが、天然型インターフェロンベータ製剤フェロン<sup>®</sup>とプロスタサイクリン誘導体経口製剤ドルナー<sup>®</sup>が競合激化に加え、2012年4月の薬価改定による販売価格低下の影響も受けた。一方、前年同期にあった一時的な開発費の発生が当第3四半期にはなかった。

## 3Q累計 (4~12月)

医療材は、ポリスルホン膜人工腎臓トレライト<sup>®</sup>、NVや吸着型血液浄化用浄化器トレミキシン<sup>®</sup>などの販売が順調に拡大。医薬品は、競合激化に加え2012年4月の薬価改定による販売価格低下の影響も受けた。

\* レミッチ<sup>®</sup>は鳥居薬品株式会社の登録商標です。

# 営業利益増減要因分析(第3四半期累計期間)



石化原料由来製品等とは、繊維、プラスチック・ケミカル、炭素繊維複合材料セグメントの合計値。

# 主要子会社収益状況(第3四半期累計期間)

億円

	売上高			営業利益		
	12年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減	12年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
東レインターナショナル	3,728	3,655	-73	78	83	+5
東レエンジニアリング	573	590	+17	18	▲1	-18
東レ建設	399	331	-68	26	2	-24
東レフィルム加工	354	348	-6	24	20	-3
東レ・メディカル	279	295	+16	11	12	+0
TAK(韓国)	712	695	-17	119	98	-21
TPM(マレーシア)	442	428	-15	3	13	+11
在東南アジア・子会社 * 1						
繊維	764	662	-102	64	8	-56
プラスチック・ケミカル	535	509	-26	28	32	+4
その他	49	56	+7	3	3	-0
計	1,348	1,227	-121	96	43	-53
在中国・子会社 * 2						
繊維	858	878	+20	85	91	+6
プラスチック・ケミカル	406	413	+7	7	5	-1
その他	78	92	+14	▲1	▲5	-4
計	1,342	1,383	+41	91	92	+1
在外・フィルム子会社 * 3						
プラスチック・ケミカル	650	594	-56	97	59	-37
情報通信材料・機器	376	372	-4	68	61	-7
計	1,026	966	-60	165	121	-44

\* 1: ITS、ETX、ISTEM、ACTEM、CENTEX、TPJ、PFR、PAB-G、TTS、LTX、TTTM、TPM 単純合計

\* 2: TFNL、TSD、TJQ、TPN、TCH、TICH、THK-G、TPCH-G、RKH/RKZ、TFH/TFZ、TBMC、TMQ、TFCC 単純合計

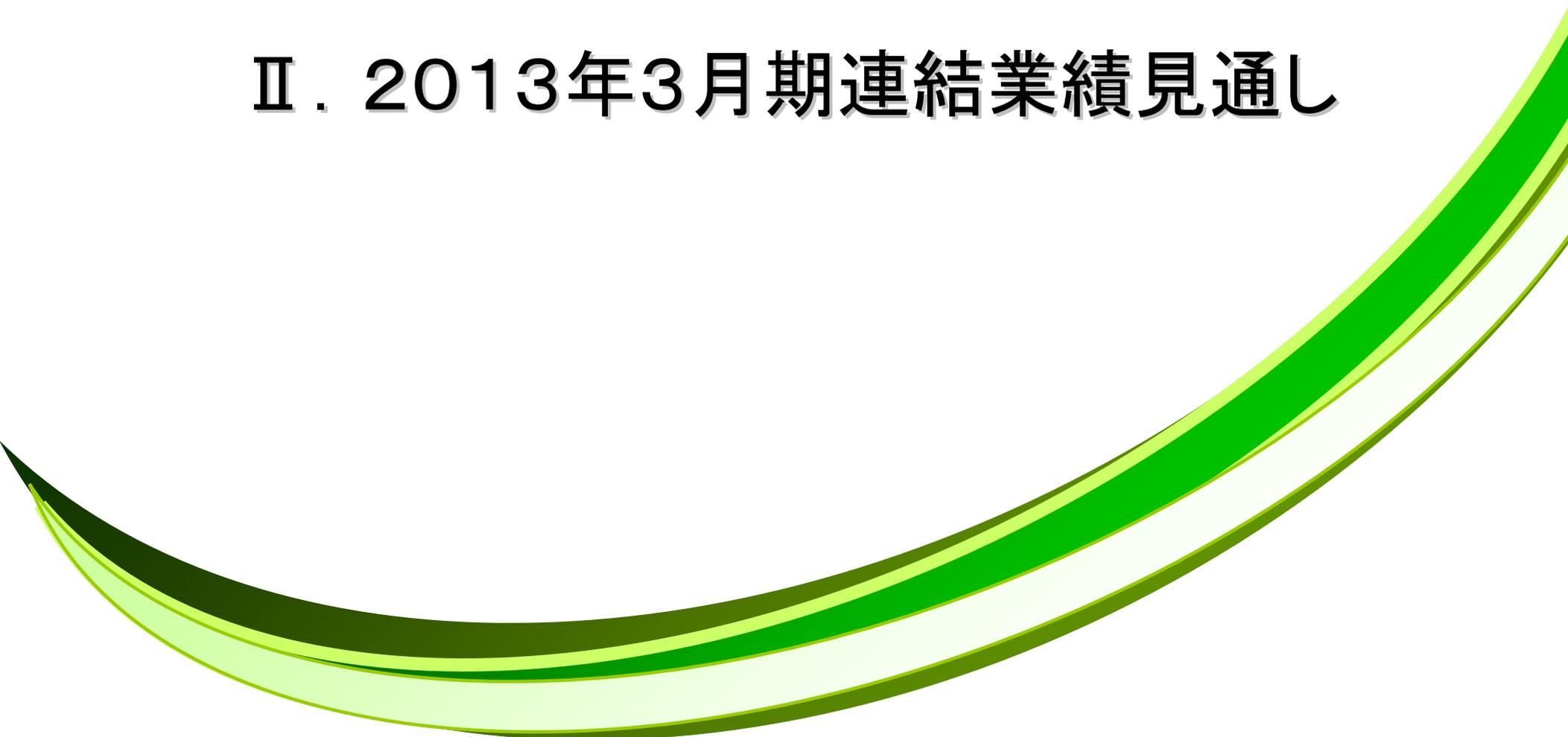
\* 3: TAK、PFR、TPA、TFE、TFH/TFZ、TAFK 単純合計

# セグメント別営業利益 2Qvs3Q比較

億円

セグメント	営業利益 13年3月期2Q→ 13年3月期3Q ( )内差異	増減益要因
繊維	98 → 162 (+64)	・機能性縫製品の秋冬物が出荷のピークを迎え好調に推移。
プラスチック ・ケミカル	50 → 42 (-8)	・樹脂の自動車用途がエコカー補助金終了の反動の影響を受けたこと等により弱含みで推移。
情報通信材料 ・機器	55 → 63 (+8)	・国内では、IT関連フィルム及びフィルム加工品を中心に堅調に推移。 ・12月決算の海外子会社は、液晶パネル等の需要回復に伴い出荷拡大。
炭素繊維 複合材料	20 → 13 (-7)	・航空機用途やCNGタンク向け等の一般産業用途の需要は堅調に推移。 ・スポーツ・一般産業用途の汎用品の価格回復には時間が掛かっている。 ・国内での高機能炭素繊維の新規ライン立ち上げや、既存ラインの定期修理に伴うコストアップ要因あり。
環境・エンジニアリング	1 → ▲3 (-4)	・水処理エンジニアリング子会社を始めとした水処理事業は堅調に推移するも、エンジニアリング子会社や建設・不動産子会社等は低調に推移。
ライフサイエンス	14 → 21 (+7)	・レミッチ <sup>®</sup> をはじめとした医薬品の出荷が増加。
その他	4 → 3 (-2)	
調整額	▲48 → ▲53 (-6)	* レミッチ <sup>®</sup> は鳥居薬品株式会社の登録商標です。
連結	194 → 247 (+52)	

## Ⅱ. 2013年3月期連結業績見通し



# 2013年3月期連結業績見通し

億円

		12年3月期 実績	13年3月期 今回見通し	対前年同期比 増減		前回見通し	前回見通し との差異
売上高	上期	7,998	7,537	-461	(-5.8%)	7,537	—
	下期	7,888	8,563	+675	(+8.6%)	8,713	-150
	通期	15,886	16,100	+214	(+1.3%)	16,250	-150
営業利益	上期	634	367	-267	(-42.1%)	367	—
	下期	443	503	+60	(+13.5%)	533	-30
	通期	1,077	870	-207	(-19.2%)	900	-30
経常利益	上期	655	380	-275	(-41.9%)	380	—
	下期	443	500	+56	(+12.7%)	530	-30
	通期	1,098	880	-218	(-19.9%)	910	-30
当期純利益	上期	401	200	-201	(-50.1%)	200	—
	下期	241	300	+59	(+24.3%)	300	—
	通期	642	500	-142	(-22.1%)	500	—

1株当たり 当期純利益	上期	24.6円	12.3円
	下期	14.8円	18.4円
	通期	39.4円	30.7円
1株当たり 配当金	上期	5.0円	5.0円
	下期	5.0円	5.0円
	通期	10.0円	10.0円

備考：為替レート的前提は、88円/US\$（1月以降）  
原油価格見通しは、108US\$/B  
（DUBAI FOB）（1月以降）

# セグメント別業績見通し (売上高／営業利益)

億円

	12年3月期			13年3月期			対前年同期比 増減			前回見通し との差異	
	上期 実績	下期 実績	通期 実績	上期 実績	下期 見通し	通期 見通し	上期 実績	下期 見通し	通期 見通し		
売上高	繊維	3,075	3,309	6,384	2,889	3,511	6,400	-186	+203	+16	+50
	プラスチック・ケミカル	2,065	1,914	3,978	1,950	1,950	3,900	-115	+37	-78	-50
	情報通信材料・機器	1,300	1,134	2,434	1,211	1,239	2,450	-89	+105	+16	-50
	炭素繊維複合材料	363	336	699	365	385	750	+2	+49	+51	-50
	環境・エンジニアリング	853	850	1,702	781	1,069	1,850	-71	+219	+148	-50
	ライフサイエンス	275	280	556	270	330	600	-5	+49	+44	—
	その他	67	66	133	71	79	150	+4	+13	+17	—
	連結	7,998	7,888	15,886	7,537	8,563	16,100	-461	+675	+214	-150
営業利益	繊維	227	226	453	185	255	440	-42	+29	-13	—
	プラスチック・ケミカル	164	110	274	105	85	190	-59	-25	-84	-10
	情報通信材料・機器	197	148	345	96	134	230	-101	-14	-115	—
	炭素繊維複合材料	50	26	77	42	38	80	-8	+12	+3	-10
	環境・エンジニアリング	42	7	49	▲ 0	30	30	-42	+23	-19	-10
	ライフサイエンス	42	17	60	30	40	70	-12	+23	+10	—
	その他	5	9	13	7	14	20	+2	+5	+7	—
	調整額	▲ 94	▲ 99	▲ 194	▲ 98	▲ 92	▲ 190	-4	+8	+4	—
連結	634	443	1,077	367	503	870	-267	+60	-207	-30	

# セグメント別営業利益の前回見通しとの差異

億円

セグメント	通期営業利益 前回見通し→ 今回見通し ( )内差異	要因
繊維	440→440 (±0)	・前回見通し通り。
プラスチック ・ケミカル	200→190 (-10)	・樹脂やフィルムなどの需要は全般的に力強さに欠ける。
情報通信材料 ・機器	230→230 (±0)	・前回見通し通り。
炭素繊維 複合材料	90→80 (-10)	・スポーツ用途や産業用途の汎用品の価格回復が前回想定よりも遅れることを織り込む。
環境・エンジニアリング	40→30 (-10)	・水処理事業で、計画していた案件の出荷時期の遅れを見込む。
ライフサイエンス	70→70 (±0)	・前回見通し通り。
その他	20→20 (±0)	・前回見通し通り。
調整額	▲190→▲190 (±0)	
連結	900→870 (-30)	

本資料中の2013年3月期の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。